

最期のときまで安心して暮らせる
東京を目指して

Active Fukushi



第24号

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

●東京都高齢者福祉施設協議会 広報誌

アクティブ福祉

平成28年2月20日発行

東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイト
<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei>

または **東京 高齢協議会** で検索



スペシャル
レポート

SPECIAL REPORT

特養ホーム内に こども学習室を開塾

社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会「同援こども学習室」

表紙写真：特別養護老人ホームフジホーム内で開催される「同援こども学習室」

CONTENTS

アクティブ福祉 第24号

- スペシャルレポート
こどもの総合的育成支援をめざし
特養内に無料学習室を開塾 2
- 「アクティブ福祉in東京' 15」
東京都福祉保健局長賞・大会実行委員長賞決定！ 3
- 特集
第72回全国老人福祉施設大会（東京大会） 4
- ひと言！物申す！「特養への入所申し込み要件は、
原則要介護3以上」について 6
- 養護分科会
養護老人ホームは地域の
セーフティネットの一役を担います 7
- 軽費分科会
地域の中の軽費老人ホーム 8
- センター分科会
沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会
と交流しました 9
- 職員研修
オーストラリア・ニュージーランド海外研修 10
- 東社協 東京都高齢者福祉施設協議会
平成28年度事業計画概要 11
- 職業研修委員会幹事募集／編集後記 12

スペシャル
レポート

こどもの総合的育成支援をめざし 特養内に無料学習室を開塾

おんし ざいだん とうきょうと どうほう えんごかい
社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会「同援こども学習室」 ● 田代 秀之 たしろ ひでゆき

学習支援だけでなく 仲間や居場所づくりに

社会福祉法人に求められる役割は多岐に及び、高齢者分野のみならず、子育て世帯への支援もその一つです。

近隣に小学校、中学校があり、当法人の福祉施設を多く運営する昭島の地で、昭島市と同市社会福祉協議会の後援を得て、平成27年6月に受講料無料の「同援こども学習室」(通称：ラ・スク)を開塾いたしました。

実施拠点は、会場の確保やリスク管理等、運営上の評価から特別養護老人ホームとしました。周囲には、保育園、児童福祉施設、病院、高齢者施設があり、法人のスケールメリットを最大限に活かせる利点があります。

私たちが目指す学習支援は、単に学習の機会を提供するだけではありません。個別対応でありながらも、共通の目標に向かう仲間作り、居場所作りとしての機能を発揮することで、日常生活の悩みや不安な気持ちにも寄り添い、専門性を活かした総合的な育成支援と考えています。将来の可能性を無限に有するこどもが、健全に、たくましく、笑顔溢れる自分自身を育むことをめざしています。



こども一人ひとりの特性を把握し、
きめ細かい個別学習支援を行う

親子面談で課題を共有 期待の大きさを実感

実際の学習は、経験と実績があり、支援理念を共にするNPO法人キッズ・ドアにコーディネートを依頼し、現在、小学4年生から中学3年生(小学生10名、中学生10名)が個別学習に励んでいます。

開塾当初、通塾対象者を決定する際、親子面談を実施するなかで、学業の状況や将来の夢、生活の課題などを丁寧に確認させていただきました。面談を終えた親子からは、一様に安堵の表情が伺え、塾に対する期待の大きさに、責任の重さを感じたことは今でも鮮明に思い出されます。



日曜の13時から15時、全24回を予定。
大学のキャンパス見学やクリスマス会等イベントの計画もある

今回、NPO法人と連携して思うことは、無理をせず、自然体でこどもと向き合う姿勢、そして支援を継続することの大切さです。結果を求めず、言葉を受け止め、表情に寄り添い、笑顔でこたえる。小さな支援ですが、続けることで大きな木に育つことを願っております。

「アクティブ福祉in東京'15」

東京都福祉保健局長賞(口演発表)・ 大会実行委員長賞(ポスター発表)決定!

●アクティブ福祉in東京実行委員会

「介護のコト体験フェア」で授賞式を行いました

9月29日に開催された高齢者福祉研究大会「アクティブ福祉in東京'15」で、優秀な成績を収めた発表者に授与される東京都福祉保健局長賞(表1)ならびに大会実行委員長賞(表2)が決定しました。

東京都福祉保健局長賞は、各会場で、学識経験者、事業所代表者、東京都職員の名が審査を行い、各会場から1題ずつ優秀演題が選ばれるものです。

また、大会実行委員長賞については、実行委員会が選出した審査員2名が、内容について7項目、プレゼンテーションスキル13項目について審査し、最優秀賞1題、優秀賞3題が選ばれました。

11月22日に開催された「介護のコト体験フェア」にて、表彰式が行われました。受賞者の皆様には改めてお祝い申し上げます。



授賞式の様子

〔表1〕 口演発表 東京都福祉保健局長賞 受賞一覧

分科会名	演 題	発表者名	
① 食事・栄養・口腔ケア・リハビリ・アクティビティ、他	吹矢アクティビティの実践がもたらす効果	社会福祉法人 亀鶴会 特別養護老人ホーム 神明園	中里はるか
② 認知症ケア、他	歩行練習と脳機能訓練の併用による転倒の減少と認知機能の改善について	社会福祉法人 同胞互助会 昭島市高齢者在宅サービスセンター 愛全園	吉沢 和人
③ 人材育成、他	認知症サポーター養成講座に、現場職員が寸劇隊として参加することの効果	社会福祉法人 フロンティア デイセンター事業部	西澤 知
④ 医療・看取りケア、他	新規施設において看取り介護を可能にする研究	練馬区社会福祉事業団 上石神井特別養護老人ホーム	熊谷 美奈 渡邊 直子
⑤ レクリエーション・余暇、他	多職種連携により、科学の目で褥瘡ケアに取り組む	台東区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム谷中	森 一恵
⑥ 日常ケアの向上、他	「特養＝終の棲家」とはならない生活	社会福祉法人 ウェルガーデン 特別養護老人ホーム ウェルガーデン西が丘園	吉木 英俊 福島 美咲
⑦ ケアプラン・相談援助、他	地域のサポーターが主体となってサロン運営を継続するための後方支援の工夫	社会福祉法人 フロンティア 西部地域包括支援センター	平山 友子
⑧ リスクマネジメント・経営、業務改善・品質、他	「介護安全週間」の取り組みによる安全意識の向上に伴う事故抑止効果に関する研究	社会福祉法人 友愛十字会 特別養護老人ホーム 砧ホーム	鈴木 健太

〔表2〕 ポスター発表 大会実行委員長賞 受賞一覧

賞	演 題	発表者名	
最優秀賞	地域包括ケアシステムの構築に向けたネットワーク作りの継続と発展施設の枠を超えた連携による地域作り	浮間さくら荘地域包括支援センター	本間 太一
優 秀 賞	認知症ケアの充実による職員のモチベーションの変化と離職率低下の関連性認定資格取得による自尊感情を高める効果	借楽園ホーム	秋山 幸子
優 秀 賞	ひとりひとりに合わせた外出を実施することで生活に起こる変化の検証についてまずは短・近・簡な外出から始めよう!	第二青梅園	塩野 里美

表彰式の会場では、ポスター発表で使用されたポスターが再掲され、多くの来場者が関心を寄せていました。

28年度の「アクティブ福祉in東京'16」は9月30日(金)開催です!

来年度も切磋琢磨された皆様の研究成果の発表をお待ちしております!

特集

第72回 全国老人福祉施設大会(東京大会) 「2025 社会保障大改革(介護新時代)は、現場の力で!」

●第72回全国老人福祉施設大会(東京大会)開催地実行委員会

2015年11月11日(水)～13日(金)の3日間、公益社団法人全国老人福祉施設協議会および社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会の共催により、第72回全国老人福祉施設大会(東京大会)が開催されました。

テーマは、「2025 社会保障大改革(介護新時代)は、現場の力で!」。全国から、約2000名にご参加いただきました。うち、東京からは311名のご参加をいただきました。

●1日目:全体会【両国国技館】

初日は相撲甚句のアトラクションから始まり、開会式典や厚生労働省による行政報告、全国老人福祉施設協議会 瀬戸雅嗣副会長による基調報告、神野直彦東京大学名誉教授による「財政学から社会保障を構想する」と題した記念講演などが行われました。

式典では、石川憲全国老人福祉施設協議会会長が、「軽度者を切り捨てる財政偏重の制度改革に対し、社会福祉の当事者としてプライドを持って利用者を守らなくてはいけない」と訴えました。また、西岡修 東京都高齢者福祉施設協議会会長は、「3日間にわたる研鑽が、それぞれの現場のさらなる力になってほしい」と挨拶をしました。

来賓では、砥出欣典東京都福祉保健局長が出席し、この大会を機に全国と東京の老人福祉施設の団体がさらに強い絆となったと祝辞を述べました。塩崎恭久厚生労働大臣も公務の合い間に駆けつけ、「一億総活躍社会」実現に向けた、現場の活躍に期待を寄せました。



オープニングアトラクションの相撲甚句



初日開会式典で挨拶する
石川憲 全国老施協会長



西岡修 東京都高齢者
福祉施設協議会会長

●2日目:分科会【品川プリンスホテル】【ベルサール新宿グランド】

2日目は品川と新宿の2会場で、5つの分科会が開催されました。

分科会テーマ

分科会	テーマ
第1分科会	『科学的介護の実践』 (アウトカム評価の指標作り)
第2分科会	『これからの特養の機能と役割』(制度・経営)
第3分科会	『介護の誇りを世界に伝える』
第4分科会	『軽度要介護者から重度者までの 複層的サービス提供を』(在宅)
第5分科会 ※午後分散会	『福祉と介護保険をみつめて』(養護・軽費)



2日目分科会の様子

●3日目:シンポジウム【両国国技館】

最終日は「超高齢・人口急減社会…迫る大都市医療・介護崩壊～課題先進国・日本の危機を超える」をテーマとしたシンポジウムが行われました。東京都高齢者福祉施設協議会からは、田中雅英総務委員長

(特別養護老人ホーム博水の郷施設長) がシンポジストとして登壇し、都市部が抱える課題について説明。田中総務委員長は、東京に住み続けたい人への選択肢として、特に施設が不足している東京都区部の高齢者を、比較的余裕のある都内市町村が受け入れる「東京版CCRC構想」を提案しました。

川野宇宏内閣参事官は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、受田浩之高知大学地域連携推進センター長は、「地方創生に対する大学の貢献」をテーマに、大学型CCRCの構築についてそれぞれ説明。また、高野之夫豊島区長は、豊島区と秩父市との連携による日本版CCRCの取り組み事例について、川島優幸介護老人福祉施設みくらの里施設長は、杉並区と南伊豆町の自治体間連携による特別養護老人ホームの整備の事例について、それぞれ説明しました。

シンポジウム登壇者

(コーディネーター)		
河合 雅司 氏	産経新聞社論説委員	
(シンポジスト)		
川野 宇宏 氏	内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 内閣参事官	
田中 雅英 氏	東京都高齢者福祉施設協議会総務委員長 ・特別養護老人ホーム博水の郷施設長	
高野 之夫 氏	豊島区長	
川島 優幸 氏	介護老人福祉施設みくらの里施設長	
受田 浩之 氏	高知大学地域連携推進センター長	



シンポジウムで発言する
田中雅英 総務委員長



3日目シンポジウムの様子

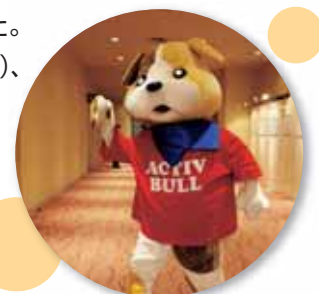
●来年度は11月15日・16日の2日間、石川県で開催

このほか、介護機器展やこれまでの東京都高齢者福祉施設協議会の活動をまとめたパネル展示、墨田区の特産品等を扱った物産展なども開催されました。

来年度の全国老人福祉施設大会は2016年11月15日(火)～11月16日(水)、石川県で開催される予定です。

開催概要

日 程 平成27年11月11日(水)～13日(金)
 会 場 【1日目・3日目】両国国技館
 【2日目】品川プリンスホテル、ベルサール新宿ブランド
 参 加 者 高齢者福祉に係わる施設・事業所 職員等 約2000名
 介護機器展 28社30ブース



東京都高齢者福祉施設協議会マスコットキャラクターのアクティブブルも全国の皆様をお迎えしました



介護機器展の様子



大都市東京の福祉課題をまとめた
パネルを展示しました



墨田区観光協会、すみだふれあいセンターの協力により物産展を開催しました

東京大会の運営にあたり、東京都高齢者福祉施設協議会会員施設から170名にのぼる係員に、多大なるご協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

ひと言！
物申す！！



あなたは 「特養への入所申し込み要件は、原則 要介護3以上」について どう考えますか？

●生活相談員研修委員会

平成27年4月に行われた介護保険制度改正では、特養への入所申し込み要件が要介護3以上に変更され(理由書を添付した特例入所申し込みは可)、入所要件も原則要介護3以上になる(入所後要介護1や2に下がった方は退所支援を行う)等、特養入所にまつわる要件が大きく見直されました。

制度改正から月日が経った今、その後の施設の運営やご利用者の処遇等に関しどのような影響が生じているのかについて、生活相談員の視点で議論しました。

現行通りで良い

- 区の入居基準に沿って緊急度の高い順に入所調整を図っているため、もともと要介護3以上の方が入居している。
- 要介護1～2の方でも一定条件付きで特養入所できるので、基本的には特養がより重度の方を対象とするのには賛成。
- 入所要件が要介護3以上になったことに異論はないが、特例入所における判断の裁量を施設側に持たせてほしい。
- 基本的には賛成だが、地域によっては特養での介護サービスが充足しているところもある。入所にまつわる要件は施設の裁量に任せてよい部分もあるのではないか。
- 実際のところ要介護1や2の方々が入所順位の上位になることはないため、特例入所の基準も含め制度上のルールが明確になったことについては賛成できる。

※日常生活継続支援加算を算定するための施設基準の一つとして、「算定日の属する月の前六月又は前十二月間における新規入所者の総数のうち、要介護状態区分が要介護四又は要介護五の占める割合が百分の七十以上であること」が定められている。

改善すべき

- 制度改正以前から重度の介護を要する方の入所受け入れが続いていることで介護職員のストレスや疲労は増している。介護職の離職が多い昨今、要介護度の軽い方も入居できる仕組みも整えるべき。
- より介護度の高い利用者が増えていくことで施設の介護負担も増えるため、人員を増やすことが出来る介護報酬の見直しを検討してほしい。
- 特に影響はないが、あえて要件を設定しなくても良いのではないか。要介護3に満たない方でもお困りの方はいらっしゃる。そういった方の受け皿の検討は必要。
- 要介護度だけでは施設入所の必要性を図ることが出来ないと思う。
- 虐待を受けている高齢者の保護や、介護者不在などを理由に特例入所となった利用者については、日常生活継続支援加算(※)の算定条件から除外すべき。そうでないと、この加算を算定できず施設運営に影響を及ぼすことから特例の緊急要請があっても受け入れを拒否する施設が増加することが懸念される。

協議会の動き

- 1月29日 平成27年度第2回総会を開催
平成28年度事業計画を承認(本誌11ページ参照)

養護老人ホームは 地域の セーフティネットの一役を担います

● 社会福祉法人 せいめいかい 清明会 あさかわ 浅川ホーム おおかわ ふみ 大川富美

八王子市の養護老人ホームの現状と課題

八王子市は高尾山に代表される豊かな自然に恵まれた地域です。平成27年4月1日より東京初の中核市に移行しました。老人福祉法施行細則についても、八王子市独自の養護老人ホーム（以下、養護）の施設及び運営に関する条例が成立しました。東京都内には34の養護がありそのうちの5つの施設（定員合計580名）が八王子市に集中しています。八王子市からの措置者数は平成27年12月現在116名。うち八王子市内の養護には99名の方が入所されており、また12月時点での入所待機者数は1名が現状です。

高齢者の支援は一般的に介護保険制度上でのサービスに目が向けられています。しかし、今後養護は介護保険だけではカバーできない社会ニーズに、いかに向き合っていくことが出来るかが問われています。また、時代に即した実践、地域のニーズに即した実践を5施設ある市内養護が連携を図り、養護として積み上げてきた機能を充実・強化しながら行政、地域を含めた仕組みを進めていくことが今後必要と思われれます。

わが地域浅川地区

浅川地区は高尾エリアに位置しており22の町会で構成された大きな地域です。

この地区は、高尾山はもちろん多摩御陵も有名です。当施設は旧甲州街道沿いにある駒木野病院より、高尾山登山道蛇滝コース1.7キロに位置しております。

この地区の方々、町会をはじめとて仲が良いので、施設の行事では大勢の皆様が参加されます。特に災害時には地域の拠点となるため、町会（災害協定を締結）、消防署、施設との年1回の合同訓練に対する参加者の意識は高いです。7月に行われた三者合同消防訓練には、実際に町会の皆様も、消火栓による放水訓練や応急救護、AED講習、利用者の避難誘導、さらに町会の皆様が施設へ避難した際の非常食の食食など行いました。また、盆踊り大会では、地域のボランティアの皆様が町会で踊っている曲を毎日施設にご指導に来て頂き、当日は大盛況でした。少しずつですがこうした取り組みの中、施設の日々の生活の様子を見て頂くことができます。ご利用者も職員も地域の皆様と顔の見える関係作りで互いの理解が深まっています。



AED講習の様子



消火栓による放水訓練



盆踊り大会

地域に期待される存在

当施設には社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士などの専門職がいます。足を運びやすい施設となり、地域の身の上相談や近所の高齢者の方の相談など多くなっています。しかし、まだまだ福祉制度の狭間で、生活に困難をきたしている方々や、地域のセーフティネットにたどり着けないで困っている方々があります。社会福祉法人として、今後も積極的に地域の民生委員をはじめとするボランティアや社協、行政と連携を密にしていきたいと思ひます。そして、出来る限り地域で尊厳を保ちながら、自立した生活の継続を願って活動していくことが使命だと思ひます。地域に溶け込み養護が地域の大きな力となり、大きな財産となるよう取り組んでいくことが必要だと思ひます。

地域の中の軽費老人ホーム

軽費老人ホームが培ってきた機能を活かすためには

● 軽費老人ホーム偕楽荘 かいらくそう 岡 おか 靖晃 やすあき

高齢化が進む多摩市の現状

軽費老人ホーム偕楽荘は、多摩ニュータウン地区のある多摩市に位置しています。その多摩市では約40年前のニュータウン開発により、多くの団地が建てられています。当時、働きざかりで入居された方々も、現在は多くの方が高齢となり、単身で生活される方も増えてきました。そのため、偕楽荘に寄せられるご相談内容も、単身生活への不安をはじめ、身体機能の低下や食生活への不安などが多く聞かれるようになりました。そのようなニーズを踏まえ、軽費老人ホームとして、蓄積してきた高齢者の自立を支援するノウハウを、地域の高齢者支援へ活かすことができないかと考えました。

地域向け料理教室を開催

これまで、介護予防教室、地域クリーンデイ（ゴミ拾い）、クラブ活動の開放などの取組を行ってきました。単身高齢者の相談で多かった食事についてもサポートできることはないかと考え、今年度、新たな取り組みとして「わくわくキッチン（料理教室）」を実施しました。テーマは「料理をしたことがない方も簡単にできる栄養価の高い食事」とし、参加者を募ったところ、予想よりも多く13名が参加されました。

参加者からは、「楽しかった。」「さっそく家で作ってみる!」といった声も多数聞かれました。今後の軽費老人ホームに求められているニーズは、高齢者の住

まいとしての機能・役割だけではなく、軽費老人ホームが長い期間培ってきた機能を地域に還元し、ご利用者と地域の方が一緒に健康寿命を延ばす支援をすることも大切だと考えます。



MENU

野菜たっぷり！体ぽかぽかスープ餃子

レンジで簡単 卵の花

めかぶの梅和え

ごはん



「わくわくキッチン（料理教室）」の様子

沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会と交流しました

平成27年度第2回支援センター分会・情報交換会

平成27年度第2回 支援センター分会 開催

10月20日(火)、今年度2回目になる支援センター分会を開催しました。今回は以前より交流を続けている沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会の皆様をお招きしました。

沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会とは、平成24年度に講師依頼をいただいたことをきっかけに、毎年研修会にお伺いし事例発表や情報交換等の交流を行ってきました。今年度は4年目の交流事業として、初めて東京へお越しいただきました。

地域データを活用して魅力ある地域をつくるために

前半では、「知り得た地域データを如何に見せていくか!～住民が自ら愛せる地域のつくりかた」と題し、データを活用した地域課題の見つけ方及び分かりやすい資料作成方法について足立区社会福祉協議会 地域福祉部 和田忍氏にご講演をいただきました。

後半では、沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会より、那覇市地域包括支援センター大名の照喜名重寿氏及び名護市在宅介護支援センター二見の里の比嘉達也氏より事例報告を行いました。孤独死をきっかけに住民の見守り体制を構築した那覇市の取組

み、地域の防災訓練を積極的に行っている名護市の取組みなどの貴重なお話を伺うことができました。

沖縄の風習や文化を活かし、また工夫しながら様々な取組みを行っていることを学びました。地域包括支援センター及び在宅介護支援センターが地域住民と連携して、魅力ある地域をつくっていくためのヒントがたくさん詰まった分会になりました。



大盛況だった情報交換会

分会終了後には、参加者同士の情報交換の場を設けました。参加者全員が自身の所属する地域包括支援センター及び在宅介護支援センターの情報や取組みを紹介し合うことで、顔の見える関係づくりが進み、今後の業務への活力となった様子が伺えました。



委員募集中!

センター分科会では4つの委員会で検討をすすめています
委員へのたくさんの応募をお待ちしています

支援センター分会

- ①支援センターの包括的・継続的ケアマネジメント支援委員会
支援センターの環境整備をテーマに、支援センターのより良い環境について検討します。
- ②支援センターのネットワーク委員会
地域診断をテーマに、地域づくりを行う力の向上を検討します。

デイサービスセンター分会

- ①デイサービス支援効果研究委員会
デイサービス利用者への支援効果とそれを導き出す支援技術を研究します。
- ②デイサービスの課題検討委員会
デイサービスの課題を明らかにし、制度やサービス、事業のあり方を検討します。

職員
研修

Hop Step Jump

第14回 オーストラリア・ニュージーランド海外研修

●特別養護老人ホーム浄風園 介護主任 新井伸明

■日本全国の仲間とともに海外の介護に触れる

2015年、9月26日から10月8日の13日間、私は公共財団法人社会福祉振興・試験センター主催の海外福祉施設研修オセアニア班に選ばれ、オーストラリア、ニュージーランドに研修に行ってきました。

メンバーは日本全国から集まった、中堅、リーダー層の介護職員たちです。彼らとオセアニアの各施設をバスでまわり、ホテルに帰るといった時間を共に過ごし、自分たちの施設との違い、問題点、日本と海外の介護の違い、など多くの事柄を話し合うことができました。これが、とても貴重な経験の一つだったと思います。

私は、介護の仕事をはじめから、自施設でしか働いたことがありませんでしたので、毎日めまぐるしく働いているような施設の状況に多くの疑問を抱いていました。

しかし、メンバーの話を聞いていると、自施設で起きている問題というのは、日本中、他の施設においても、同じように問題になっていることが多々あるのです。自分の施設をまず受け入れることができ、やれるところから改善しようという前向きな気持ちになりました。



シドニーの風景



ニュージーランド、ホームステイ先にて



施設見学の様子

■“代わりのいない”介護—専門性に誇り

さて、オセアニアは、日本と違い、高齢者の人口の問題の波は、まだ押し寄せてはいません。

施設の介護現場においても、バタバタした環境はありませんでした。だからといって、職員の人員配置が多いということはありませんし、施設にお年寄りが少ないわけでもありません。とても印象に残ったことの一つとして、看護師が介護職の人たちをとっても信頼していました。

オセアニアでは、認知症という病気をよく理解し、対応の仕方などをはじめ、勤務時間内に先輩職員からトレーニングを受ける

時間があるなど、職員を育てることに力をいれています。そして、介護という専門性に誇りをもっています。

「看護の代わりはいるけれど、介護の代わりはいないのよ。いつもお年寄りのそばに居るのは介護の人たちなのよ。」と、現地の看護師が言っていました。

日本も海外も、介護するということは何も変わっていません。文化の違いはあるが、人を大事にすることに変わりはありません。「職員が幸せでなければ、利用者さんを笑顔にすることなんてできないわ。」と言う、ある施設長の言葉が心に残りました。

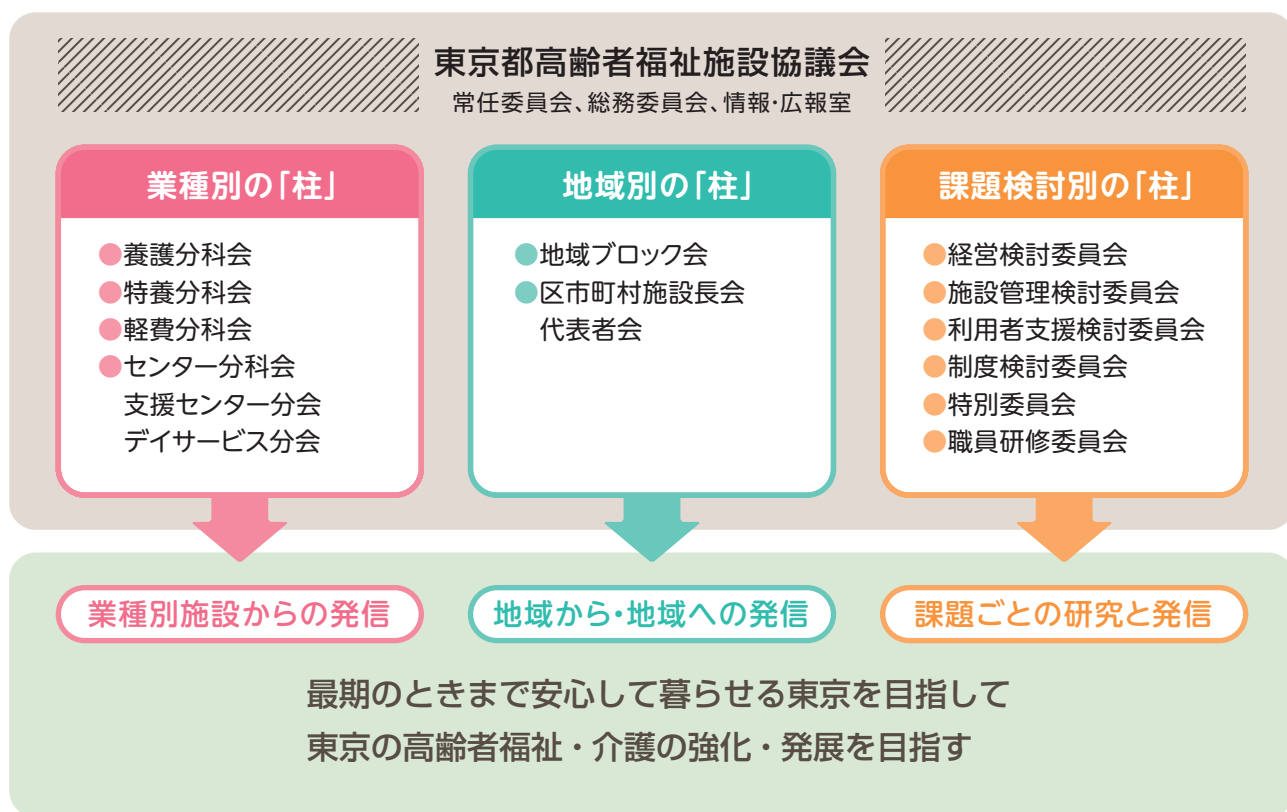
東社協 東京都高齢者福祉施設協議会

平成28年度事業計画 概要

1月29日の総会で、東京都高齢者福祉施設協議会の平成28年度事業計画が承認されました。ここでは、概要として、重点的に取り組む活動についてまとめました。

I 「業種」・「地域」・「課題検討」の3本柱を強化

○「業種別」の分科会活動、「地域別」のブロック会や施設長会活動、「課題検討別」の委員会の3つを協議会の「柱」として組織強化を図ります。



II 最重点目標を踏まえた事業推進体制の構築

東京都高齢者福祉施設協議会の 最重点事業 (平成27・28年)

- 1 介護人材対策の推進
- 2 地域公益活動 (社会貢献事業) の推進
による社会福祉法人への理解促進
- 3 社会福祉法人への理解促進のための
広報強化

28年度における
具体的な取り組み

- (1) 介護人材対策の推進
- (2) 福祉の視点による地域包括ケアの推進
- (3) 地域貢献活動の都内一斉開催
- (4) 次期報酬改定への対応
—都民フォーラム2016の開催
- (5) 情報・広報室の設置による広報の強化
- (6) 専門委員会の再編準備

職員研修委員会では

幹事を募集しています!



東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 職員研修委員会では、職種ごとに研修委員会を設置し、研修会の企画運営、報告書等の編集発行、調査研究の実施等、様々な活動を行っております。各委員会は、会員事業所の職員の方々(幹事)により構成されています。

「他事業所の職員と交流したい」「こんな研修会を企画・開催したい」「スキルアップしたい」等、ご興味のある方ならどなたでもご応募いただけます。皆様のご応募をお待ちしております。

1 募集している各職種別研修委員会の活動内容と対象…下表参照

2 主な役割…(1)委員会への参加(研修会の企画や情報交換を行います)

(2)研修会や情報交換会の開催と当日運営

(3)アクティブ福祉in東京(高齢者福祉研究大会)の企画・運営

(4)その他(テキスト等書籍の作成・調査・研究活動など)

3 応募資格…東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 会員事業所に所属する職員

4 連絡先…社会福祉法人東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL: 03-3268-7172 FAX: 03-3268-0635

1 事務職員 研修委員会

委員会 年4回程度の開催

対象 特養・養護・軽費の事務職員

2 生活相談員 研修委員会

委員会 年6回程度の開催

対象 特養・養護・軽費の生活相談員

3 介護職員 研修委員会

委員会 年5回程度の開催

対象 特養・養護・軽費の介護職員

4 看護職員 研修委員会

委員会 年6回程度の開催

対象 特養・養護・軽費の看護職員

5 栄養 研修委員会

委員会 年6回程度の開催

対象 特養・養護・軽費の栄養士

6 機能訓練指導員 研修委員会

委員会 年3回程度の開催

対象 特養・養護・軽費の機能訓練指導員

7 ケアマネジャー 研修委員会

委員会 年6回程度の開催

対象 特養・養護・軽費の介護支援専門員

8 センター 研修委員会

委員会 年3回程度の開催

対象 支援センター・デイサービスの職員

編集

暖冬一変一敵
寒が到来し、インフルエンザやノロなどの感染症対策に苦慮されていること
と思います。読者の皆様、健康に留意されお過ごしください。

後記

さて、広報誌編集委員会では、本誌を通じて、都内の高齢者福祉の活動などを広報してきました。今後は、施設管理検討委員会のウェブサイトを運営と共同し、更なる広報の強化に努めることとなります。皆様のお力添えをお願いいたします。

本号のスペシャルレポートでは、法人や地域の資源、地域連携を活用した社会(地域)貢献活動として、「同援(とも)学習室」の取組みをご紹介させていただきました。今後は、高齢者に限らず児童・子育て世代など全世代への地域包括的な支援が求められてくるかもしれません。先駆的な取組みです。

各分科会コーナーでも、社会(地域)貢献に向けた取組みをご紹介させていただきます。些細な事でも先ずはできることから地域へ貢献して行きたいですね。

事務職員研修委員会 幹事(養護分科会)
(安立園養護) 日高 優浩